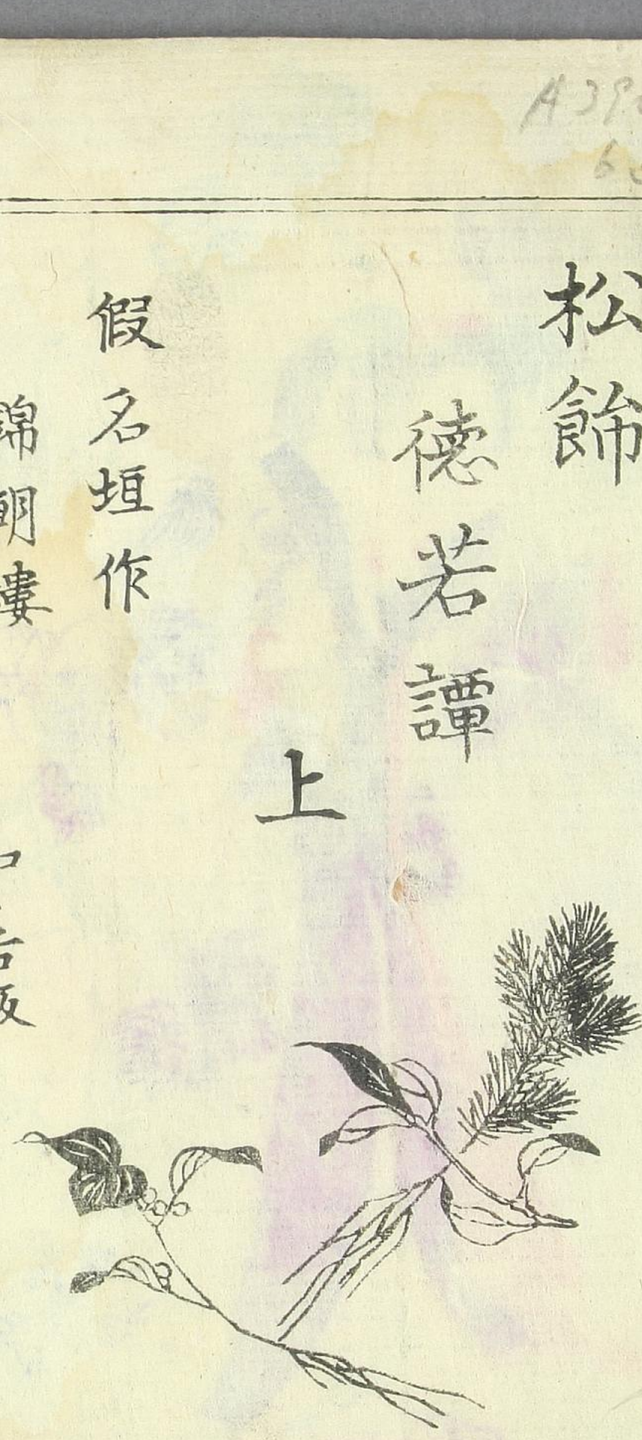
六編上

A396
62

松飾 徳若譚 上

假名垣作
錦朝樓 加て吉版



48-7728

千代の竹垣末葉そよぐ白旗の梅林薫り傳へて常盤乃松の色変ぬハムが工業を幼童等ふ知らせまゐらせき老波女心ふ此徳若の物語を前ふ綴りかけぬるに。僥倖ふ時好ふかふへ。既ふ六編の今ふ至りぬ。是全く八名将の洪徳寛仁功臣等ぶ忠魂義膽ふ依る處。敢て作者の面目ふあらざるにてを大須賀が述ると偽る。彼家の歴代記。平岩が名を假りし参河後風土記及びその餘の偽書乃妄説を。筆の掃木に除捨く武徳編年集成の正訂き找採る實録ふ。花を咲せ〜櫻木の壽長き小冊史にをん

浅草廣小路
駿河旅舎ふ潜伏して

作者
假名垣魯文記

○戸田彈正寳光

永楽銭五貫文賞状

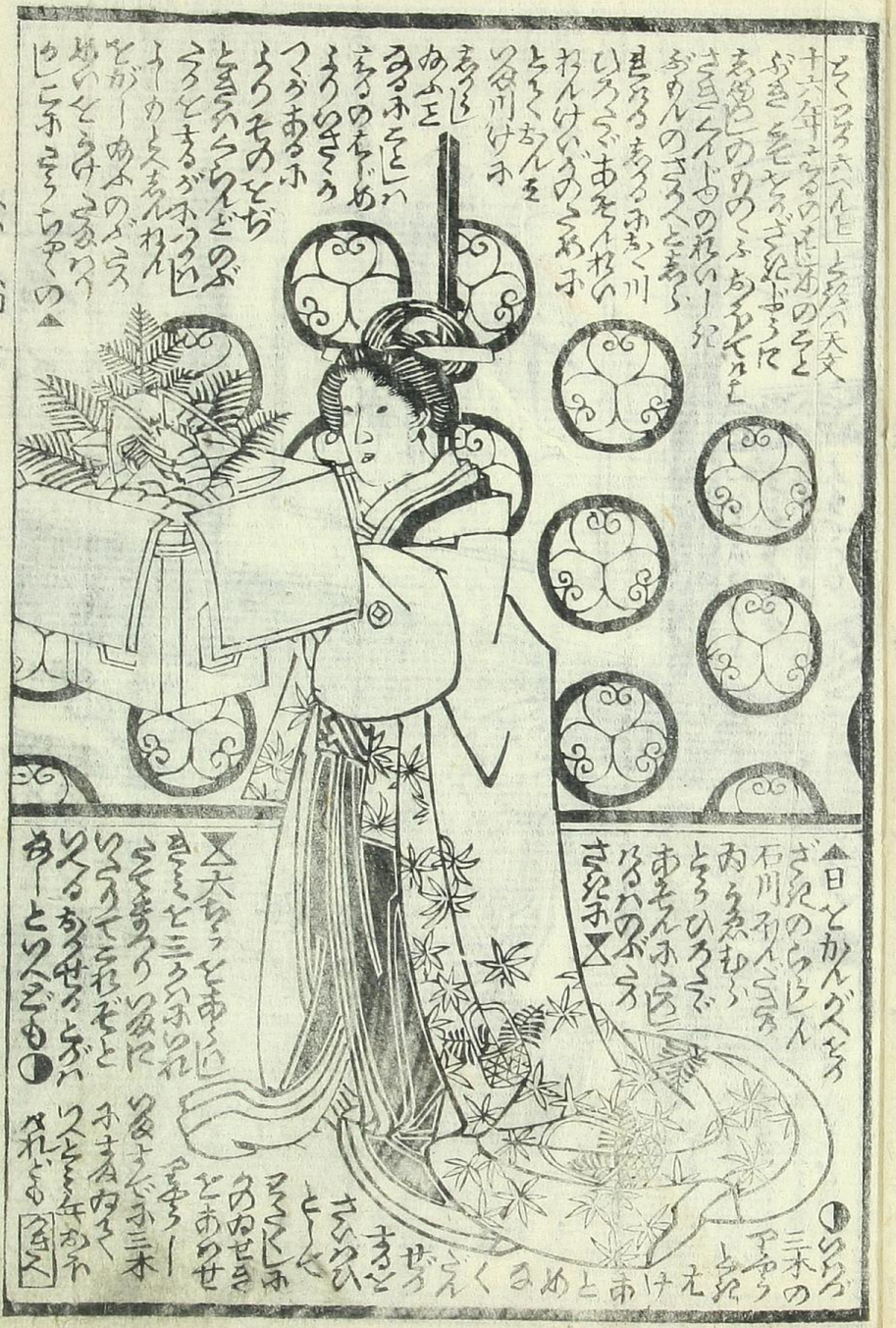
○戸田の息女
黄忠の後妻

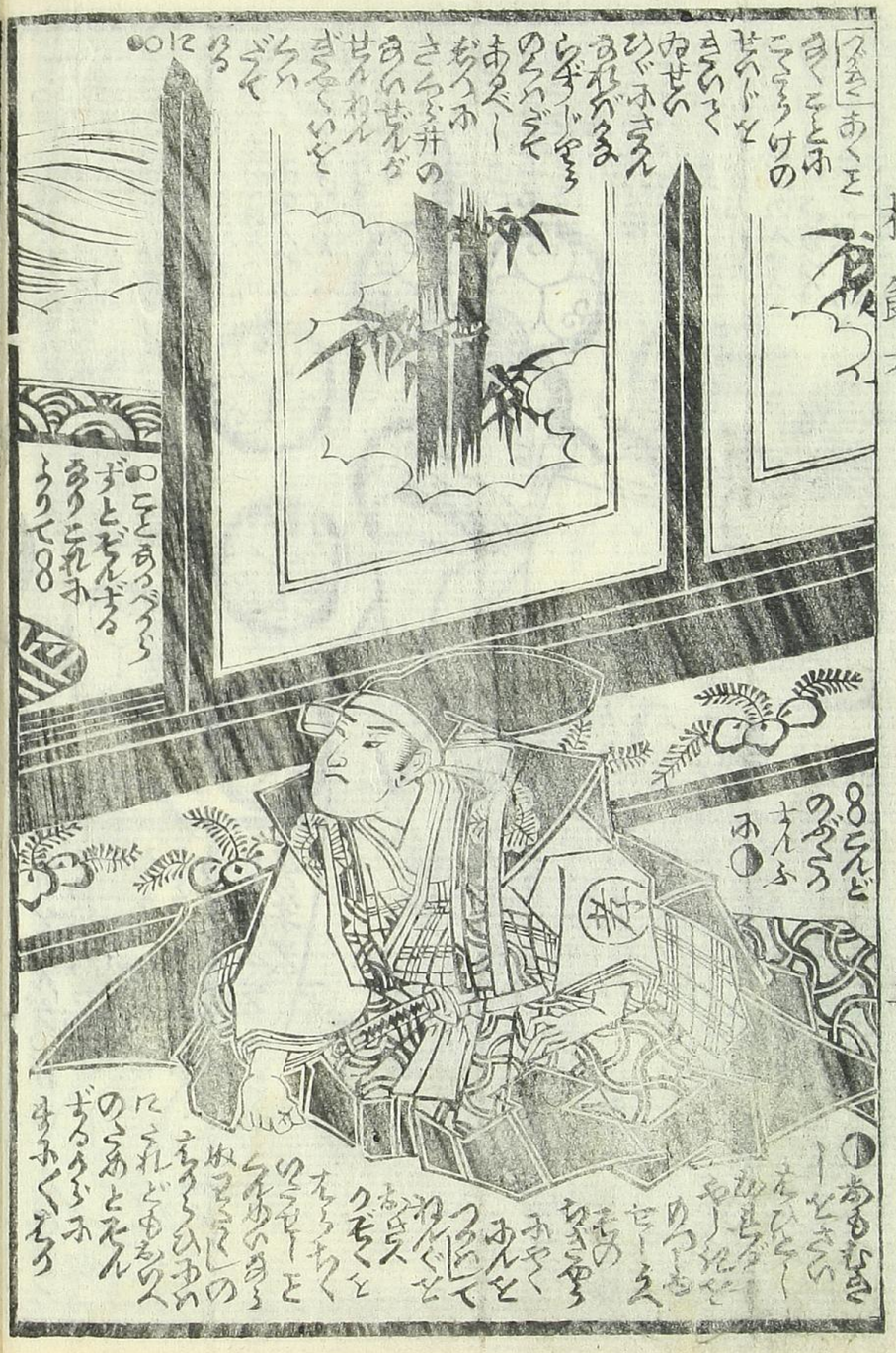
○徳若丸

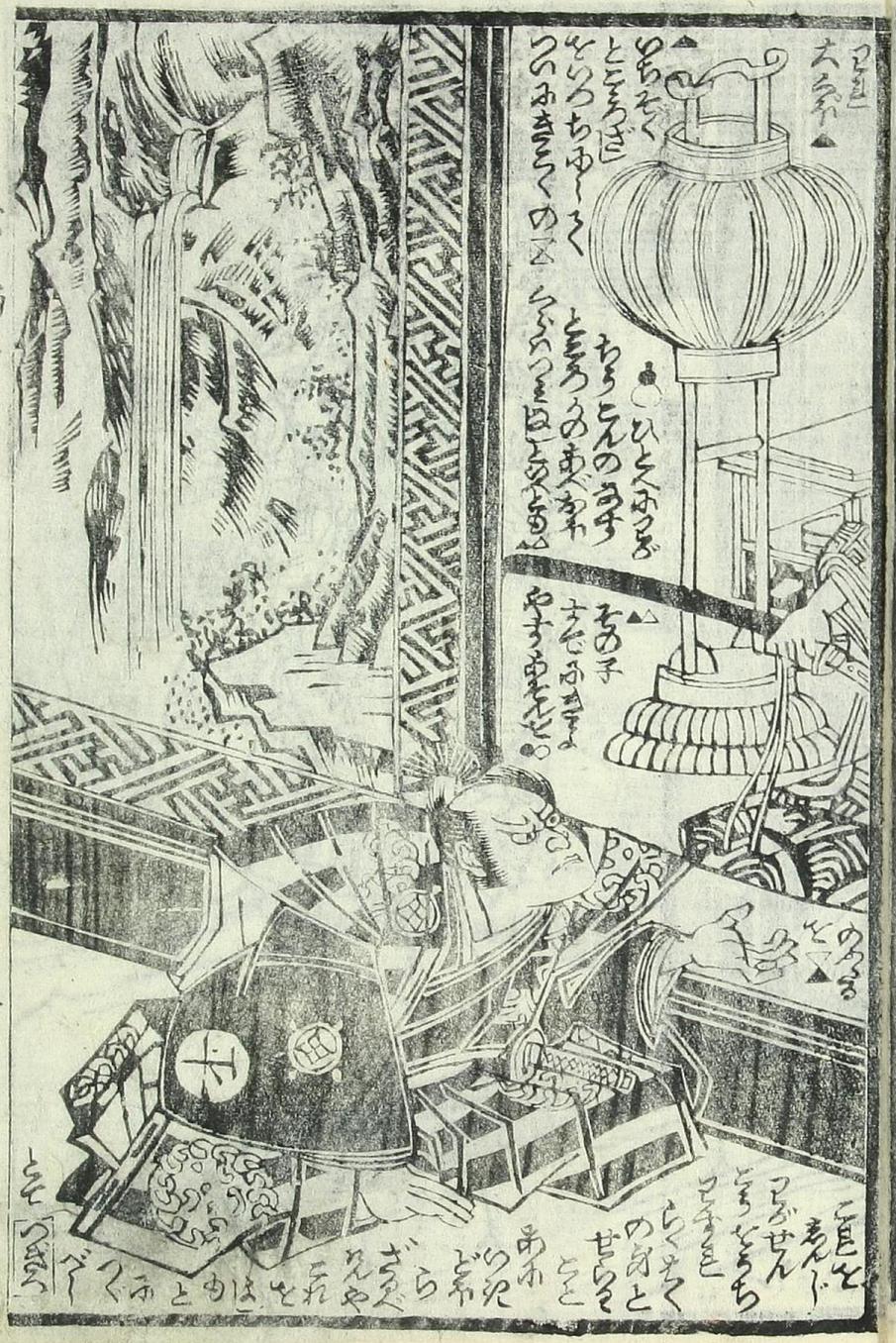
○石川与七郎 敷正

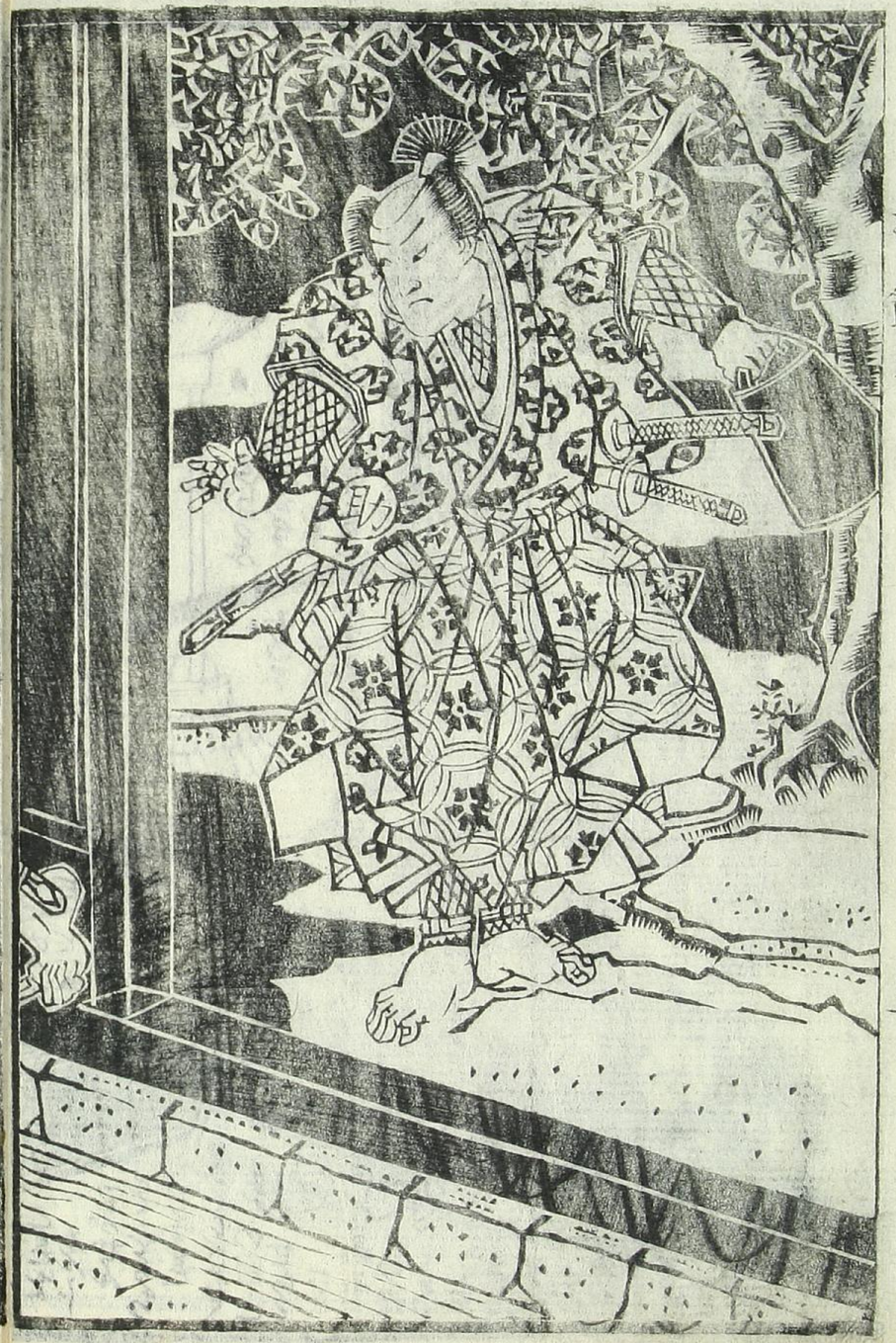
○常盤 与一郎 忠正

徳堪忍而後萬歳
勇臣
筧平三郎重忠
奥河
廣忠朝臣

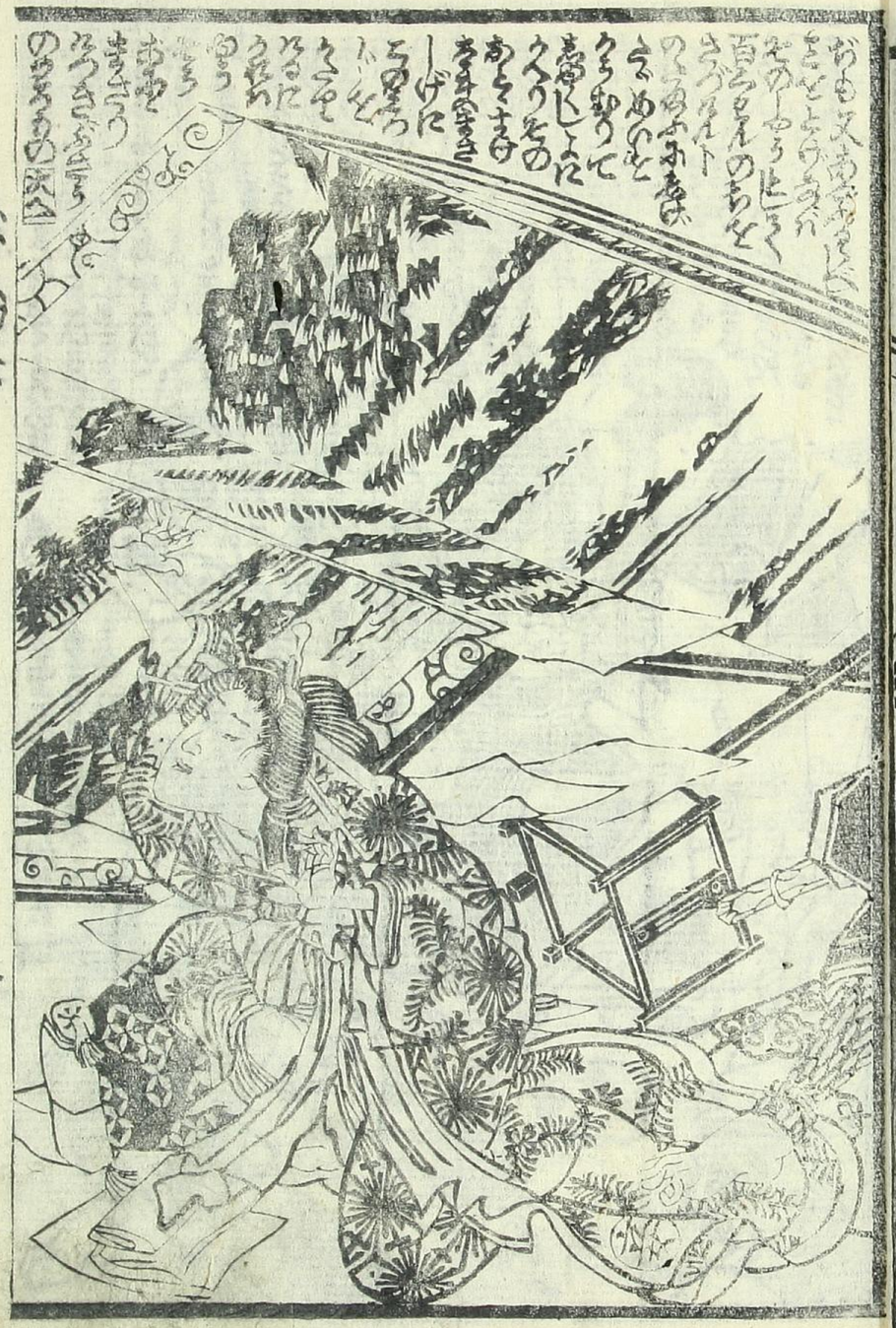



○ことあっぺろっぺろ
ずとぎれずるあろこれホ
うりて8
○にて
○あくとをきくことふこそうけのたのごとをきいてみせのひぐふさえるおれがまらずどやうのろいごそあるべーおろかさつぶ井のあのぜんがせんかれずそいそうんでそる
○ありさまをいとさいそひそひそひもだもだしれをうけてわびごとをするとくそくのうそとくそのうそとくそのうそとくそ





つゞき のぶひでとうせんを
そらして三ばうみらんのほど
上ござ三木のさぶらひけと
ぬひきしそろざぶらふをきおひろて
おそんしてそのぶひでおふをと
よることをのまとうの刺客ひて
つゐにでともとひそうみらんて
せうまあうのうちをうれひを
のぞくべくとてきしんうひ
平三ふうきげこそゆひそうに
あうせんうへんぢ上ござ
ゆきのびりうてきこそとめた
ひそうみせうごのあさんや
のうめやこのわしいかうの
いたゞうえとうまり
うんぢうみうふえ
これがごうひこのこれ
ざーをめてこぐともを
さしおこゆーそゆげ
えるべーもってきざーそこざうってく
えらんとせがあん



おもえんあるとこ
をとうろうれ
そのーやうにうく
百ごうえのちを
さうれんト
のこのふおまぶ
えうめのを
くうもうて
夢しよに
くうをの
あそさま
あえきき
しげに
このふ
えるに
うれの
うう
あを
まさう
うえきぶさう
のうえうの次公

つぎは　ゑびすさまとさくらうのさま
さらともにやうんとこひろれどもも
あひてでありてそれをもさまざま
すぐれまんろうかあひて
こいろうあとてこうげ
ゆうろれとうげ

◑あふぐのさる
そのもとを
もさうしてうと
ゆけのどうとうさ
みやうとうつくろう
とうかひそもうのる
さたに平三ろうもろのうちか
もの人びりう三ぎ人のうえもの
のまきれまうのうしゃく
さてもいさやかやまの
すのくろうとうくはんも
もうしぬまうすをろう
うしんくのうえふうちまさ
がりてうのまちとれをうれ
つうふけりてうさやまる
とまちかうどうれりうのもと

○上うぐ
さてもすゐをさまさ
しげり◑

出家　ゆるんとうるをみしも
もうすべてとりを
ひとりのまうさ
ものつくまうう
うとうとものをにとて
つるまきにのゆるや
とれゆでうんと
こうちさうんと
せーうつさ
ビをを
もてこれ
をゆき
とり
つくる
うとうとのう
きこうをうつく
のゆびまうをうつくに
をうりくうやうもうつにきを
ぎてうりうせうのうとくく
だゆトえものくとうりうく
あうきうゆうくまりるた

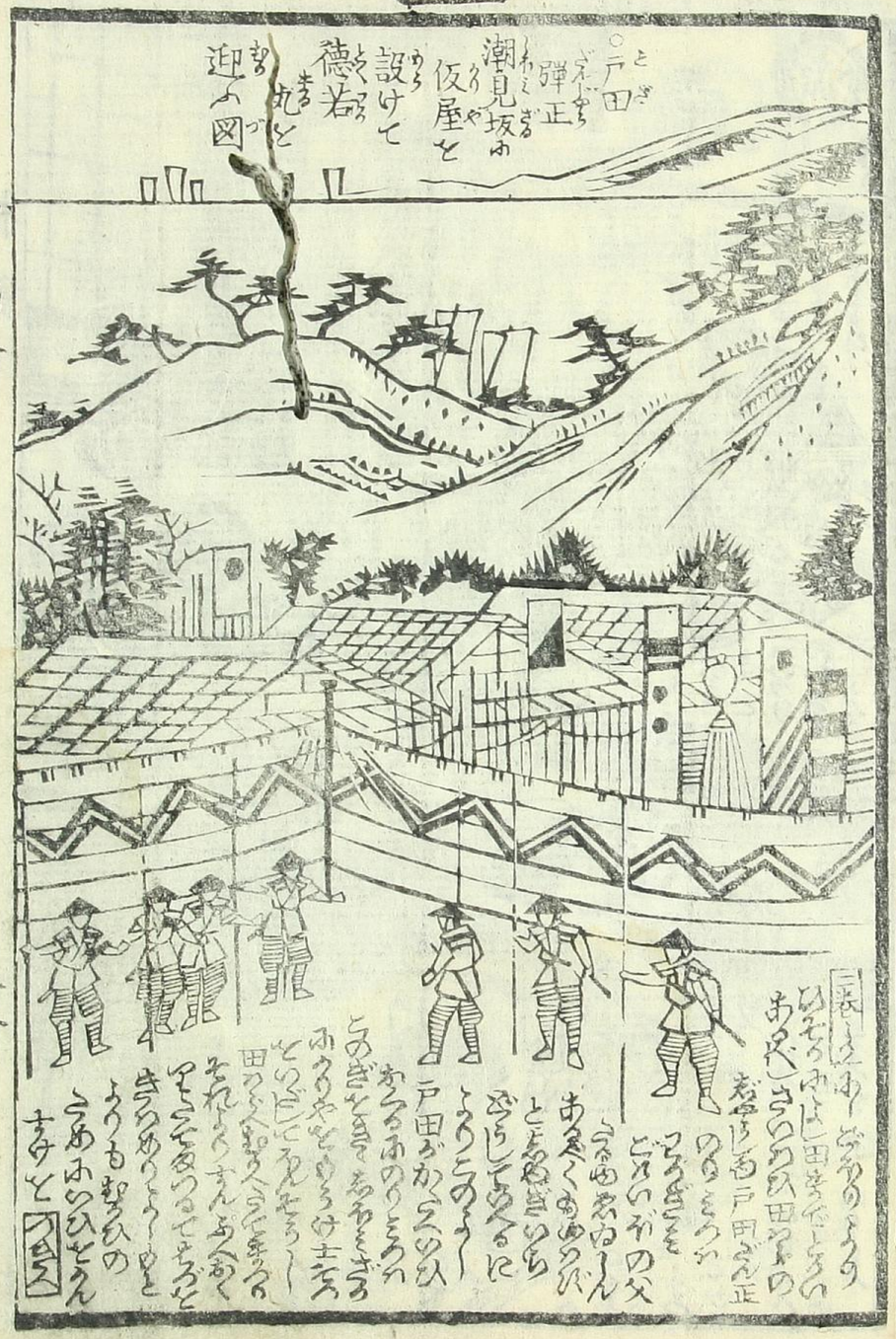
魚文作

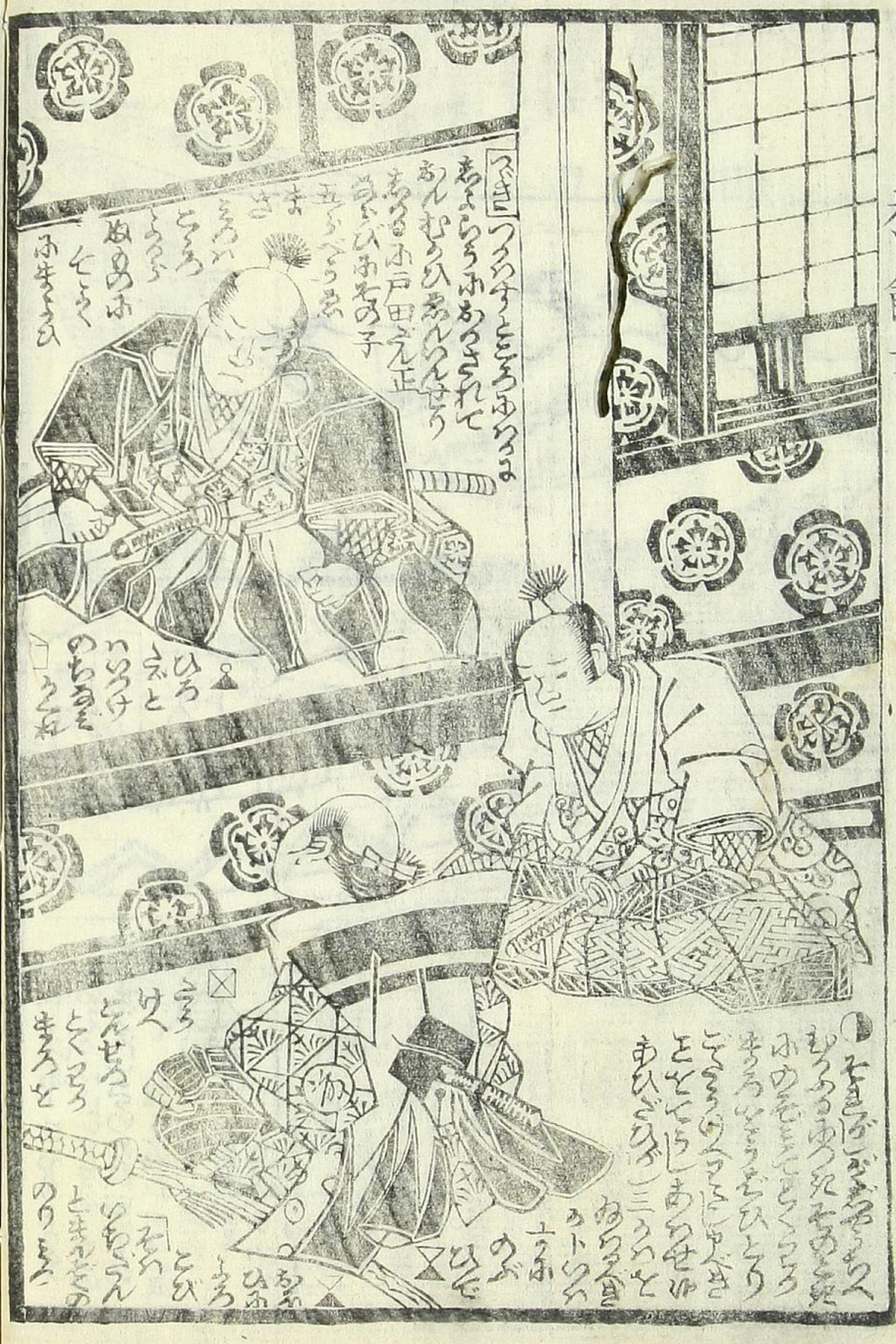
芳虎画

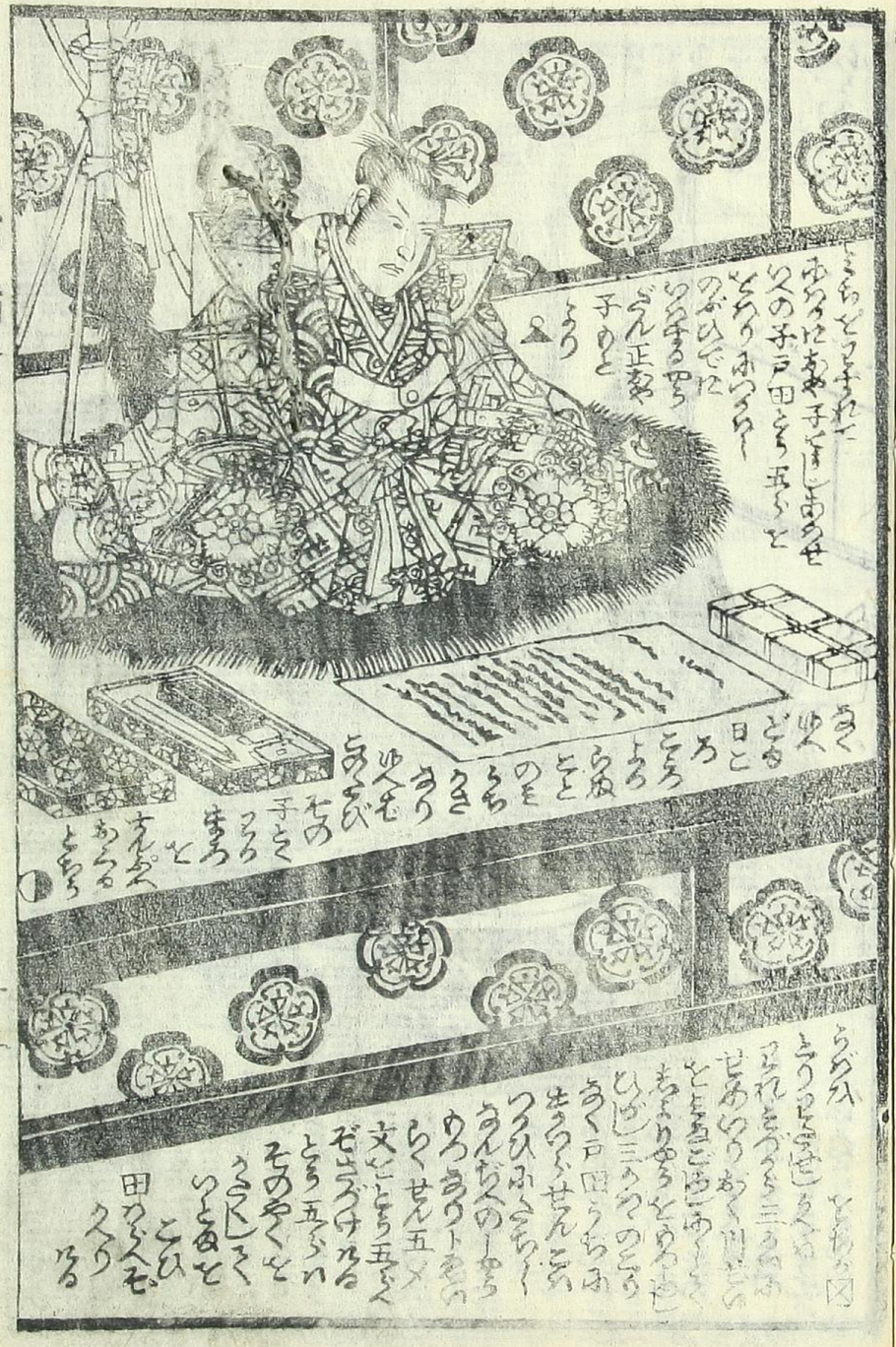
松飾徳若譚　五編　假名垣魯文作
　　初編　六編　七編
今朝春三組盃　二編　三編　孟斎芳虎画
いろは文庫　初編　十編　山々亭有人作　歌川国重画
繪本太平記　初編　二編　三編　孟斎芳虎画作

地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛板

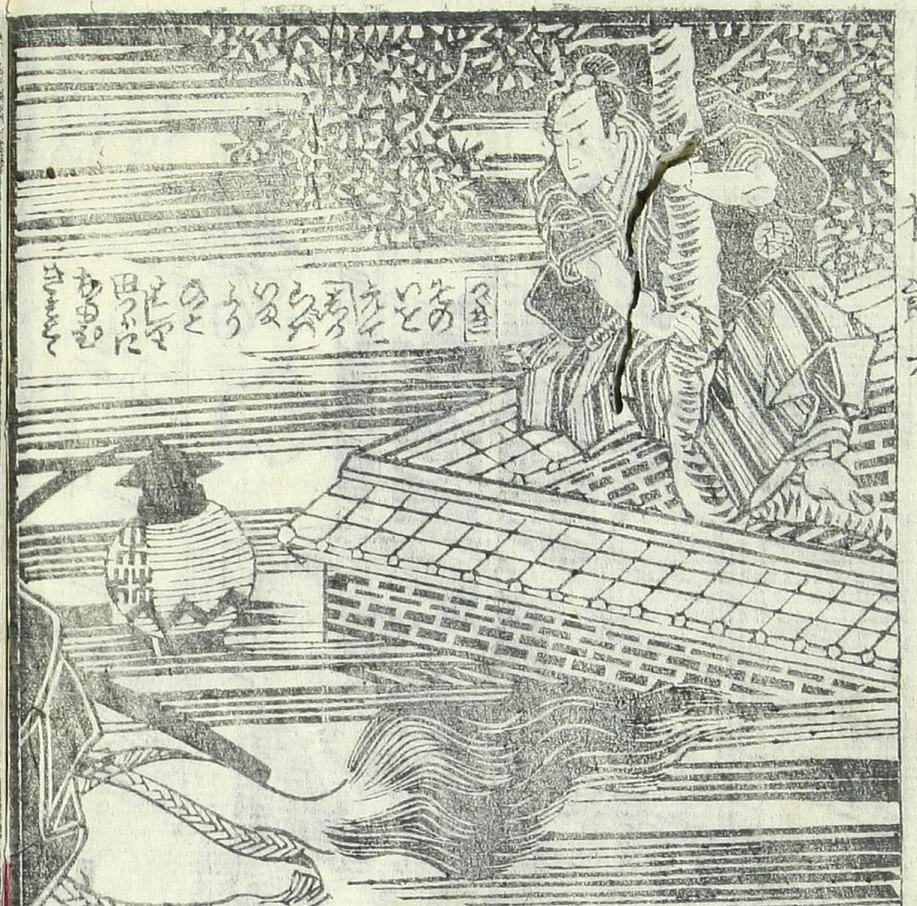
六編下


戸田
潮見坂
仮屋
徳若丸
迎ひ図

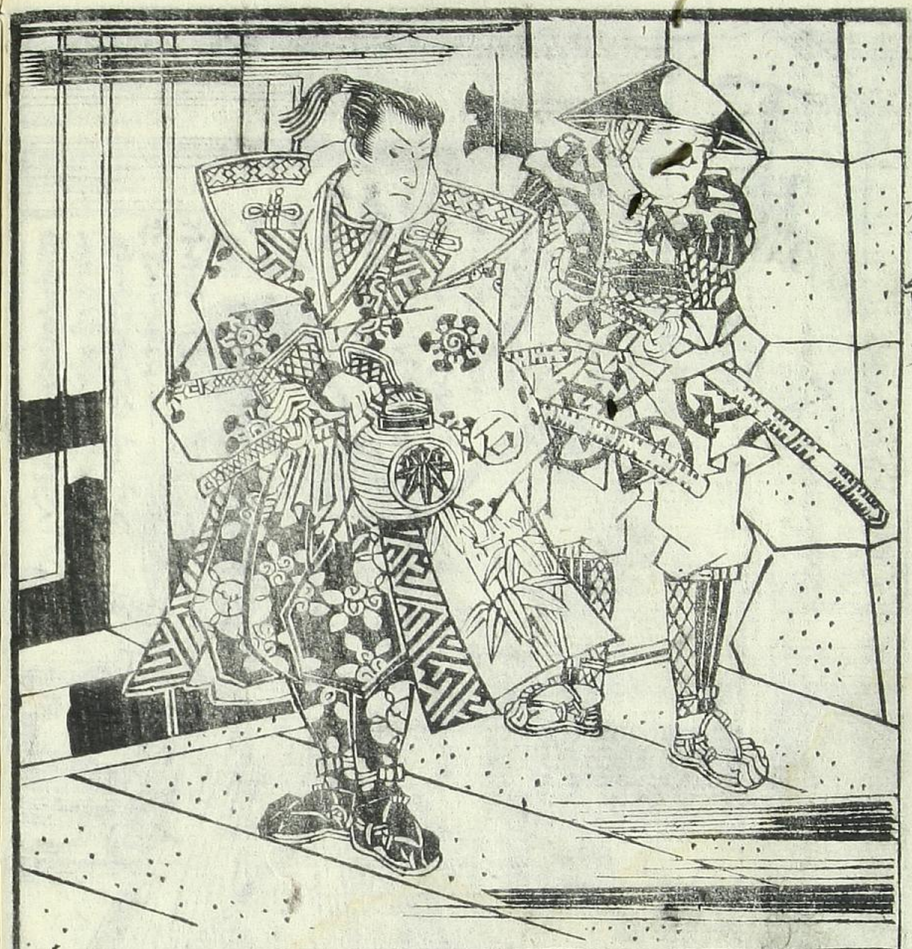


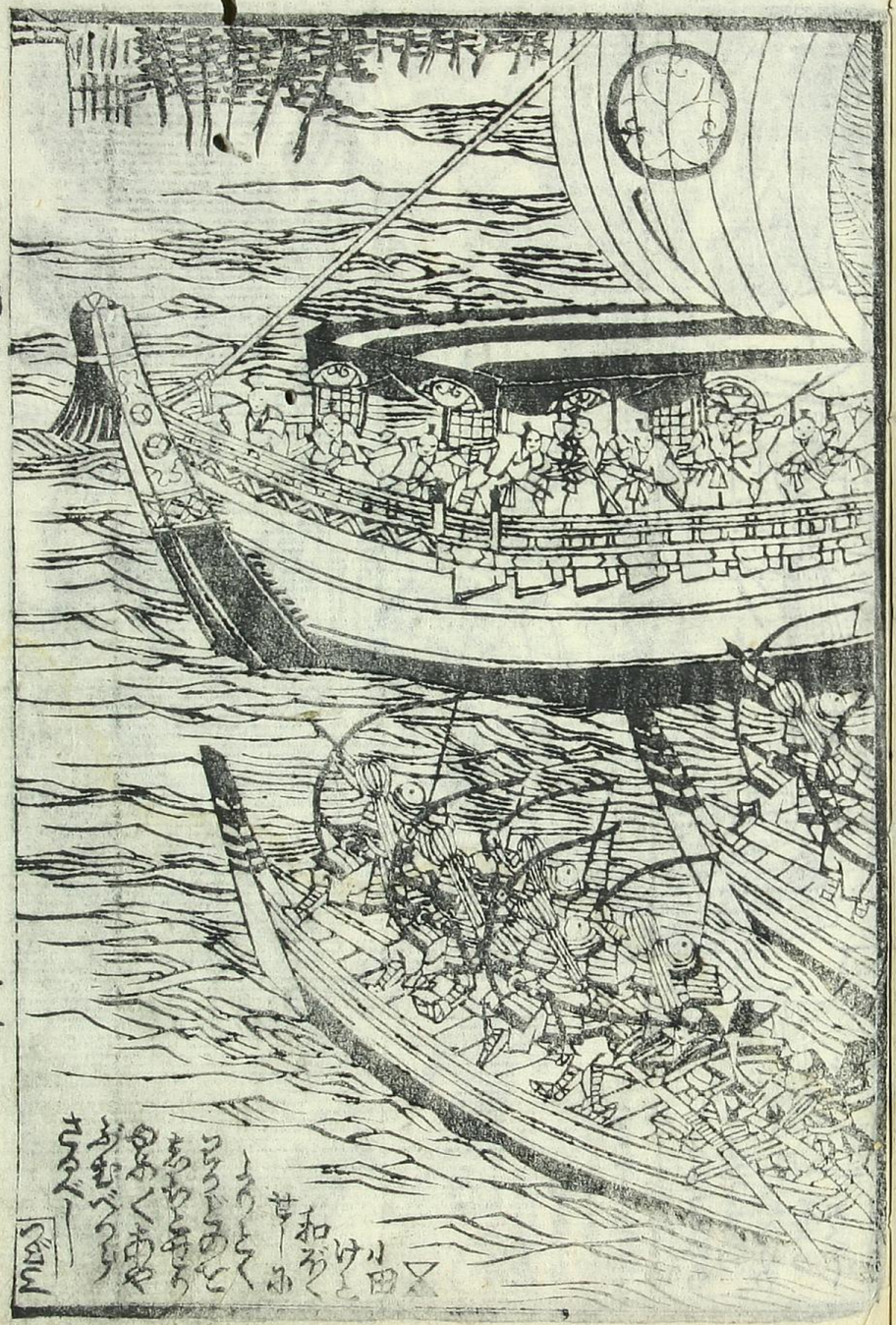


○これハさて／あれそれ／又そろ／ごたの／きうしん／もうあんハ／まき／ごたと／りる／もの／りき／まや／まて／る／とまりて／さたのとー／あく川けと／らちあんー／ものまつ／ちやうこと／ちやうちやう／ちやうこと／ちやうちやう／ちやうこと／ちやうちやう



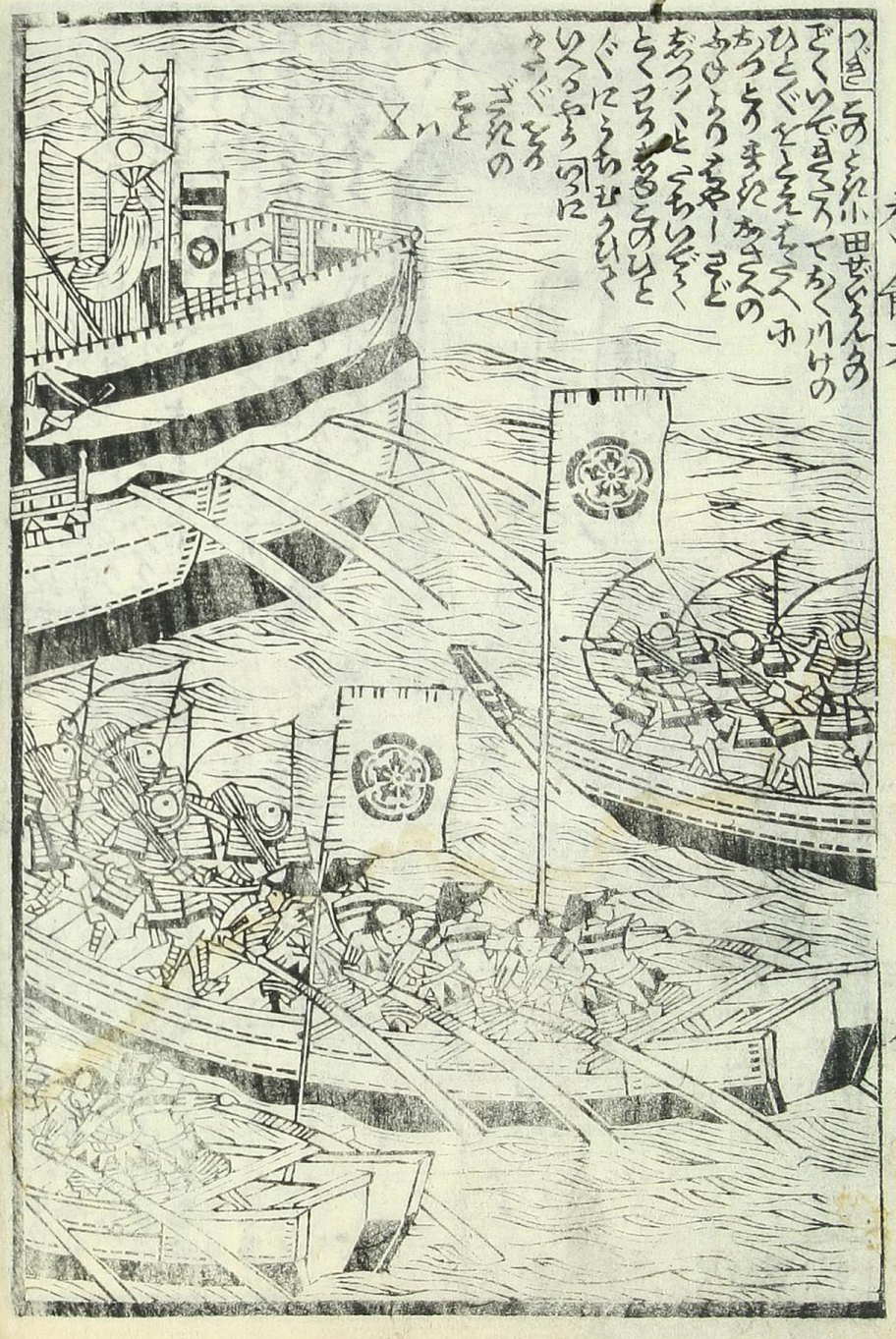
下馬

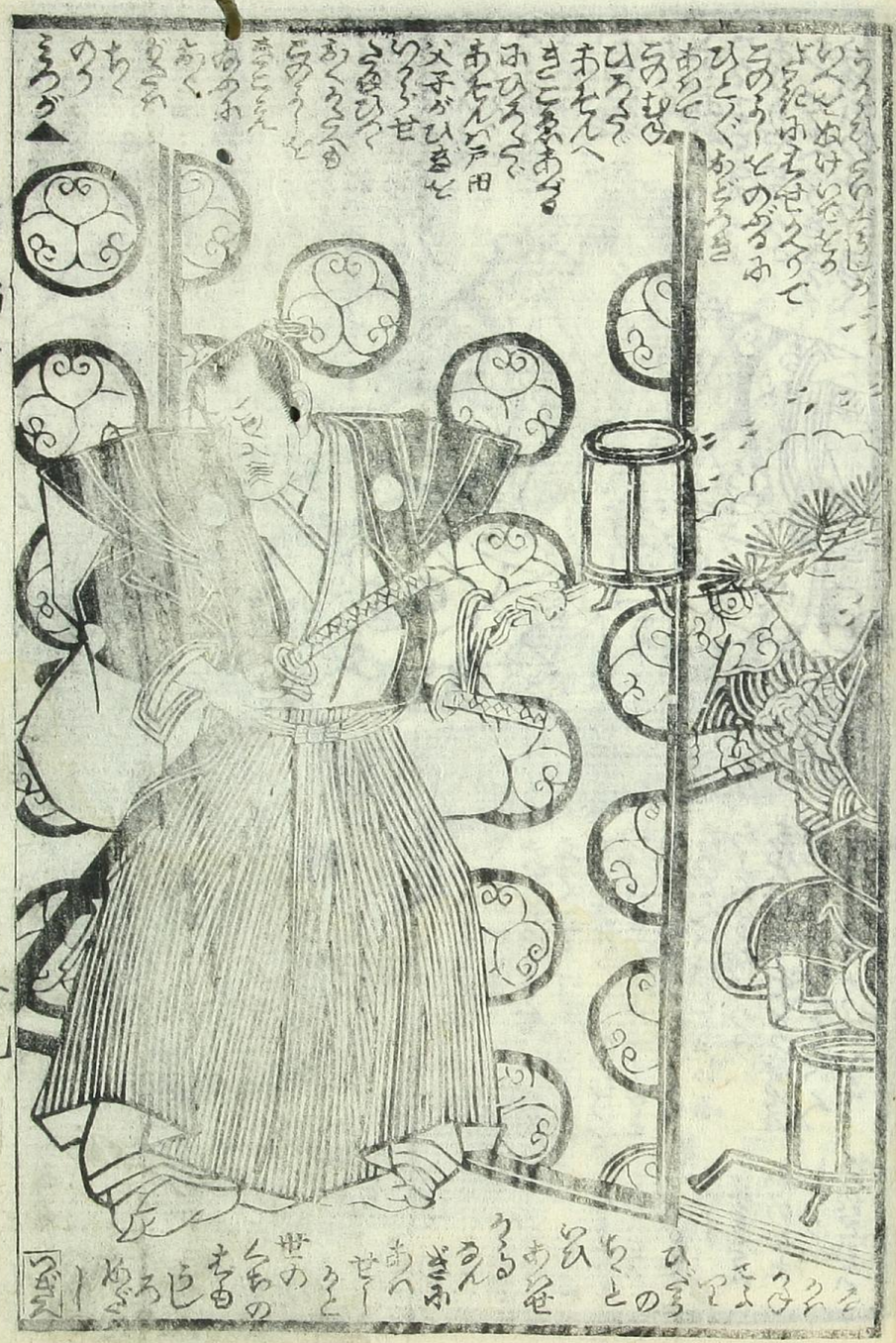




又小田切ぜんぱう
和ぞく共ふね
よりてこうとのをあわせ弓ぜうの
ものくあやおもべうりさうぐ

つぎこのとき小田切ぜんぱうの
ぞくいでまうでてあくまけの
ひとぐをとゝそゝくみ
あうとうまわたかさんの
あひだうちやーこど
おつゝとこちいぞく
とくこうあるこのひと
ぐにうちむうりく
いろもう四つにさぐぐとうの
さぐれのを





010190518472

假名垣著錦朝樓画

新增補西國奇談　廿一編　爲永春水作
薄緑娘白浪　廿二編　孟齋芳虎画
隅田川月と梅若　九編　假名垣魯文作
繪本太閤記　三編　孟齋芳虎画
柳亭種彦作
山亭有人編
五編
六編
孟齋芳虎画
十編錦朝樓芳虎画

地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛